

異常構音からみたディサースリアの機能障害 by Shin 2008.7.6

音系列	症状	鑑別	機序	機能障害	タイプ分類
口唇音系	/p//b//m/が[ɸ]に置換または近い音に歪む	下顎の保持介助をする と/m/は構音可能または改善	下顎を口唇閉鎖できる範囲 で挙上できない	三叉神経麻痺(中枢性)	痙性
				三叉神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				下顎筋力の廃用性低下	痙性・弛緩性
		鼻をつまむと/p.b/は構音可 能または改善	鼻咽腔閉鎖機能不全のため 口腔内圧を高められず破裂動作不全	迷走神経麻痺(中枢性)	痙性
				迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				鼻咽腔閉鎖機能不全(進行時)	運動低下性
		口唇の障害部分を指で押 さえると構音可能または改善	口唇閉鎖不全のため口腔 内圧を高められず破裂動作不全	顔面神経麻痺(中枢性)	痙性
				顔面神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				片側性顔面神経麻痺(中枢性)	UUMN
			口唇の運動範囲制限	運動低下性	
			口唇の不随意運動	運動過多性	
	/p/が[b]に置換または近い音に歪む	不規則に症状が起こる /b/も[p]に置換または近い 音に歪む	口唇の運動と声帯振動のタイ ミングがずれる	発声機能障害	運動過多性・失調性
				症状が一貫している	声帯の過緊張による有声化
		/ɸ/を構音不能	鼻をつまむと構音可能また は改善	鼻咽腔閉鎖機能不全のため 口唇からの呼気流出不能	迷走神経麻痺(中枢性)
迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性				
鼻をつまんでも構音不能	呼気圧の不足のため口唇 からの呼気流出不能		呼吸機能低下	痙性・弛緩性・運動過 多性	
/p//b/が[m]に置換または近い音に歪む	鼻をつまむと/p//b/は構音 可能または改善	鼻咽腔閉鎖機能不全のため 鼻音化	迷走神経麻痺(中枢性)	痙性	
			迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性	
			鼻咽腔閉鎖機能不全(進行時)	運動低下性	
舌音系	/t//d//n/が摩擦成分の混入した音に歪む	下顎の保持介助をする と/n/は構音可能または改善	下顎を舌尖が歯茎に接触 できる範囲で挙上できない	三叉神経麻痺(中枢性)	痙性
				三叉神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				下顎筋力の廃用性低下	痙性・弛緩性
		鼻をつまむと/t//d/は構音 可能または改善	鼻咽腔閉鎖機能不全のため 口腔内圧を高められず破裂動作不全	迷走神経麻痺(中枢性)	痙性
				迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				鼻咽腔閉鎖機能不全(進行時)	運動低下性
		下顎を介助しても鼻をつま んでもいずれの音も変化なし	舌尖を歯茎に接触できる範 囲で挙上不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性
				舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN
	舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)			運動低下性	
	舌の不随意運動			運動過多性	
	/t//d//n/が[k][g][ŋ]に置換または近い音に歪む		奥舌が挙上しないために代 償的に舌尖を挙上している	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性
				舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN
				舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)	運動低下性
				舌の不随意運動	運動過多性
				舌の測定障害	失調性
	/t//d/が/n/に置換または近い音に歪む	鼻をつまむと/p//b/は構音 可能または改善	鼻咽腔閉鎖機能不全のため 口腔内圧を高められず破裂動作不全	迷走神経麻痺(中枢性)	痙性
				迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				鼻咽腔閉鎖機能不全(進行時)	運動低下性
	/s//ʃ//s//ʃ/が[t][d]に置換または近い音に歪む		舌を中空に保持できず摩擦 動作不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性
舌下神経麻痺(末梢性)				弛緩性	
片側性舌下神経麻痺(中枢性)				UUMN	
舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)				運動低下性	
舌の不随意運動				運動過多性	
舌の測定障害				失調性	
/r/が[d]に置換または近い音に歪む		舌尖を反転できず弾き動作 不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性	
			舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性	
			片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN	
			舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)	運動低下性	

				舌の不随意運動	運動過多性
				舌の測定障害	失調性
	/k//g//ŋ/が[h]に置換または近い音に歪む	下顎の保持介助をする と/ŋ/は構音可能または改善	下顎を奥舌が歯茎に接触 できる範囲で挙上できない	三叉神経麻痺(中枢性)	痙性
				三叉神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				下顎筋力の廃用性低下	痙性・弛緩性
		鼻をつまむと/k//g/は構音 可能または改善	鼻咽腔閉鎖機能不全のため 口腔内圧を高められず破裂 動作不全	迷走神経麻痺(中枢性)	痙性
				迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				鼻咽腔閉鎖機能不全(進行時)	運動低下性
	下顎を介助しても鼻をつま んでもいずれの音も変化な し	奥舌を歯茎に接触できる範 囲で挙上不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性	
			舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性	
			片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN	
			舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)	運動低下性	
			舌の不随意運動	運動過多性	
			舌の測定障害	失調性	
/k//g//ŋ/が[t][d][n]に置換 または近い音に歪む	奥舌が挙上しないために代 償的に舌尖を挙上している	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性		
		舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性		
		片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN		
		舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)	運動低下性		
		舌の不随意運動	運動過多性		
		舌の測定障害	失調性		
声門音	/h/が母音に置換または近い音に歪む		声帯の接近が不十分なた め摩擦動作不能	迷走神経麻痺(中枢性)	痙性
				迷走神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				鼻咽腔閉鎖機能不全(進行時)	運動低下性
母音	広母音/a/が半狭母音[e]狭母音[i]などに置 換または近い音に歪む	下顎を広母音が構音可能 な範囲で挙上不能	三叉神経麻痺(中枢性)	痙性	
			三叉神経麻痺(末梢性)	弛緩性	
			下顎筋力の廃用性低下	痙性・弛緩性	
	広母音/a/から半狭母音/e/狭母音/i/、あるい はその逆のわたりがうまくいかない	下顎を開放したまま保持す るとわたりができる	下顎を連続的に適切に開 閉不能	三叉神経麻痺(中枢性)	痙性
				三叉神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				下顎筋力の廃用性低下	痙性・弛緩性
		下顎を開放したまま保持し てもわたりがうまくいかない	舌尖を連続的に上下不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性
				舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性
				片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN
	奥舌母音/o//u/が前舌母音[e][i]などに 置換または近い音に歪む	舌を奥舌母音が構音可能 な範囲で後退不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性	
			舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性	
			片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN	
			舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)	運動低下性	
			舌の不随意運動	運動過多性	
			舌の測定障害	失調性	
	奥舌母音/o//u/から前舌母音/e//i/、あ るいはその逆のわたりがうまくいかない	舌を連続的に適切に前進 後退不能	舌下神経麻痺(中枢性)	痙性	
			舌下神経麻痺(末梢性)	弛緩性	
			片側性舌下神経麻痺(中枢性)	UUMN	
舌の筋力低下・舌の運動範囲 制限(進行時)			運動低下性		
連続的運動で悪化する舌の不 随意運動			運動過多性		
舌の測定障害			失調性		
円唇母音/o/が非円唇母音[u]などに置換 または近い音に歪む	口唇を円唇母音が構音可 能な範囲で丸め不能	顔面神経麻痺(中枢性)	痙性		
		顔面神経麻痺(末梢性)	弛緩性		
		片側性顔面神経麻痺(中枢性)	UUMN		
		口唇の運動範囲制限	運動低下性		
		口唇の不随意運動	運動過多性		
円唇母音/o/から非円唇母音/a//i//u//e/、あ るいはその逆のわたりがうまくいかない	口唇を連続的に適切に丸 めたり元に戻したりできない	顔面神経麻痺(中枢性)	痙性		
		顔面神経麻痺(末梢性)	弛緩性		

				片側性顔面神経麻痺(中枢性)	UUMN
				口唇の運動範囲制限	運動低下性
				連続的運動で悪化する口唇の不随意運動	運動過多性
				口唇の反復運動の速度と正確さの異常	運動低下性・失調性
その他	構音の異常が特定されない	個々の構音や短い単語ではほとんど誤りがない 発話課題と乖離した非発話課題での反復運動の速度低下	発声発語器官の運動範囲制限による口唇・舌の狭小な運動範囲により機能の低下に比して運動速度が低下しない	発話課題での発声発語器官交互反復運動速度の維持	運動低下性
		個々の構音や短い単語ではほとんど誤りがない 連続的発話で構音の歪みや不規則な誤りが現れる	発声発語器官の協調運動と測定の障害	発声発語器官の反復運動の速度と正確さの異常	
		個々の構音や短い単語でも誤りがあるが、連続的発話で悪化する 症状が突発的で一定しない 声の大きさと高さが単調である	不随意運動による発声発語器官の不正確な運動	連続的運動で悪化する顔面・舌・下顎の不随意運動	運動過多性

※機能障害からの目標設定・訓練の選択については「AMSD 結果からの問題点抽出法と治療主義選択法 I II」参照のこと。

[参考文献]

熊倉勇美『言語聴覚療法シリーズ9 運動障害性構音障害』建帛社

本間慎治『言語聴覚療法シリーズ7 機能性構音障害』建帛社

斉藤裕恵『言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害』建帛社

広瀬肇・柴田貞夫・白坂康俊『言語聴覚士のための運動障害性構音障害』医歯薬出版株式会社

西尾正輝『ディサースリアの基礎と臨床1』インテルナ出版

西尾正輝『ケースで学ぶディサースリア』インテルナ出版